

1. 防災減災対策のために「路面下の空洞調査」を早急に

最近の異常な自然現象は、危機迫るものがあります。台風については、過去最大級の到来があり、ゲリラ豪雨による土砂災害など大きな爪あとを残しました。また、日本は火山の国であることを忘れてはいけない、と突きつけられたような御嶽山などの噴火で多くの被害を受けました。

2011 年の 3・11 東日本大震災以降このような自然現象によって生じた地殻変動で地下はどのような状態になっているのか、その状況を把握して対策を講ずることが急務であると考えます。

今、多くのインフラの老朽化により路面の下に空洞が生じ、これによって発生する突然の路面陥没の報道を目にする場合があります。

路面下の空洞化現象は、上下水道管の老朽化による漏水や破損、河川や海岸に沿った道路では、老朽化した護岸から水位の変動によって内部の土砂が流出して発生すると考えられております。そのため路面の下に潜む空洞による陥没の危険性については、事前に把握し適切な対策を講じていくことが、防災・減災の観点から大変重要だと言われております。

開成町として路面下の点検や整備をどのように取り組み計画されているのか伺います。

2. 公共施設内トイレにおける節水と設備改善を

家、学校、会社などの日常生活で使われる水は、生活用水とよばれています。一人が一日に使う生活用水は、40 年前に比べ 2 倍近くに増えているという発表が 2011 年国土交通省水資源部からありました。日本人女性は特有の「たしなみ」といわれているトイレでの「音消し」を行っています。ほとんどの人が羞恥心から水を 2 度流して利用しています。そこで女子トイレを使用する時の音を消すための設備を施すことは、多量の節水となり大変に有効な施策と考えます。

開成町の、公共施設には和式トイレが数多く設置されています。例えば、町民センターにおいて、行事が開催されてトイレ休憩になると、洋式トイレが空くのを待つ方々の列の横で、和式トイレは空いているという光景を目にする場合があります。その理由として「使いたくても足や腰に持病があるので使えない。」との声や、親子連れのお母さんからは「子どもが和式は嫌がって使いません。」との声も聞きます。

- ① 女子トイレに擬音装置で節水を図っては。
- ② トイレで手を洗う蛇口を自動センサーに改良し節水しては。
- ③ 既存の和式トイレを洋式トイレにしていく考えは。